

碧南市景色づくり計画



© ISAO SUITSU

数年前、碧南市内のいたるところに綺麗な青いペンキが塗られたベンチが置かれていたのを覚えていますか？

いつの間にか現れ、いつの間にか消えたベンチは1ヶ月間と言う限定的な社会実験でした。

「市民が好きだと言う景色が見える場所にベンチを置いてみました」
みずいろベンチと呼ばれたこの活動で、2012～2014年の間に市内に73箇所の設置候補が上がり、その半数の32箇所に実際に設置されました。

どの設置場所も市民の声を反映したものでした。
それは、ただ美しいと言うだけでなく、思い出があり、変化し移ろう景色に対する市民の眼差しの現れとなりました。



大浜港 *



昔あった海水浴場と松林 *



応仁寺 *



碧い海の記憶

四百年前、碧南市は今よりも小さく
その大半が碧く美しい海でした

前浜の松並木 *



旧海岸線を伝える斜面林 *



権現崎の笠松 *





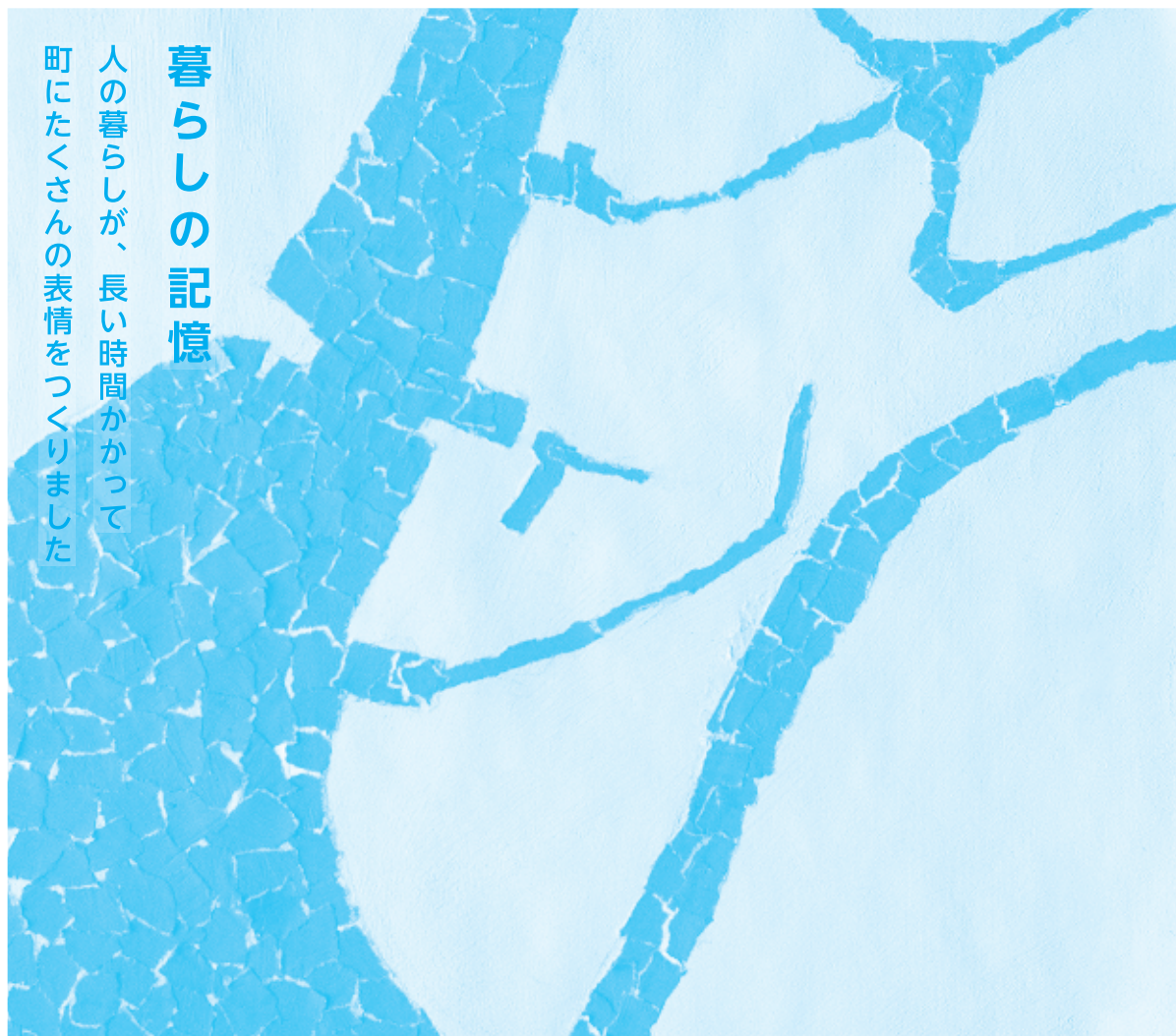
旧大浜警察署*



九重味淋大蔵*



大浜本伝寺の路地*



暮らしの記憶

人の暮らしが、長い時間かかって
町にたくさんの表情をつくりました

碧南レールパーク



貞照院*



人参畑とビニールハウス*

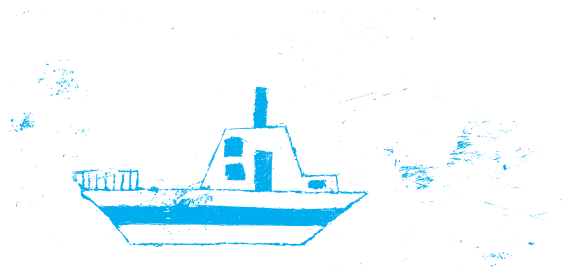


* 出典：「景色を集める活動（碧南市）」より

碧南市 景色づくり 計画

碧南の景観を守り育て創造するために、私たちにできることは何でしょうか？ 景観を構成している要素は自然、歴史、産業、文化ととても複雑ですが、景観の担い手側から考えるとそれぞれの役割が理解できません。景観の基盤を保全するのは行政、共感と共同による生活の景は市民、新たな景観による創造的未來は優れた設計者です。これらが重なりあつて碧南の景観が作られると考えます。景観、風景、景色と呼び方は様々ですが、意味はおおよそ同じです。碧南市では、市民の目線で景色と呼んでおり、この計画書の名称も「碧南市景色づくり計画」としています。

市民の景色とは



碧南市は、市外から観光バスの押しかけけるような山河景勝はありませんが、私たちが生活の中で親しんできた身近で大切にしたいと思う景色ならたくさんあるのではないのでしょうか。景色の有る無しは、私たち一人一人の思いから始まります。そして「私の景色」に共感する人の輪が大きくなると「みんなの景色」となり「地区の景色」となり、やがて「碧南の景色」になっていくのです。

市民の景色を守り育てる計画



フランスの歴史家アラン・コルバンは著書『風景と人間』の中で、「風景を見ればその町の人々が何を大切にしてきたか判る」と言いました。碧南市景色づくり計画は、碧南で暮らす私たちが大切にしたいと思う景色を守り育てる計画です。地域ごとの生活感や価値観に合ったルールを定め、碧南らしきを作り上げていきたいと思います。

建物の計画をされる方へ



© KEIKO YUASA

景色には地域で暮らす私たちの思いが反映されています。しかし、地域の思い出や価値観は外から見ただけでは知ることが困難です。より地域に調和した計画を実現させるために、碧南市景色づくり計画を参照してください。

この計画は、市民で景色を守り育てることができる計画です。一人一人の思いを集めて、みんなの景色を発見することから全ては始まります。私たちの身近な景色づくりを一緒に始めませんか？ 関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

